

青森県コケ植物分布ノート (5)¹⁾

太田正文²⁾

Notes on Distribution of Bryophytes in Aomori Prefecture, Northern Japan (5)

OTA Masafumi

キーワード: 青森県, コケ植物, コケ植物相, 絶滅危惧種, 希少種

はじめに

これまで青森県内で記録されたコケ植物は, ここ数年で種数が大きく増えて, 今のところセン類が約 480 種, タイ類・ツノゴケ類の約 210 種を合わせると, 合計で 690 種を超えていると思われる (太田 2019). 今後, 調査が進むことで新たなものが見つかり, 種数はさらに増えることが予想される.

筆者は, 現在の県内のコケ植物相を把握するための調査を続けているが, その結果得られた分布上の新知見をその都度報告することに努めてきた (太田, 2002・2003・2005・2019). 今回の報告文では, おもに平成 30(2018) 年に観察した数種について報告する.

1 レイシゴケ *Myurella sibirica* (Müll. Hal.) Reimers ネジレイトゴケ科 レイシゴケ属

筆者は平成 30 (2018) 年 9 月, 岩木川の支流である大沢川沿いの林道脇 (標高約 300m) で, 岩壁のくぼみに, 本種が数センチ四方大の小集団をつくっているのを確認した (図 1). これは県内での初記録である.

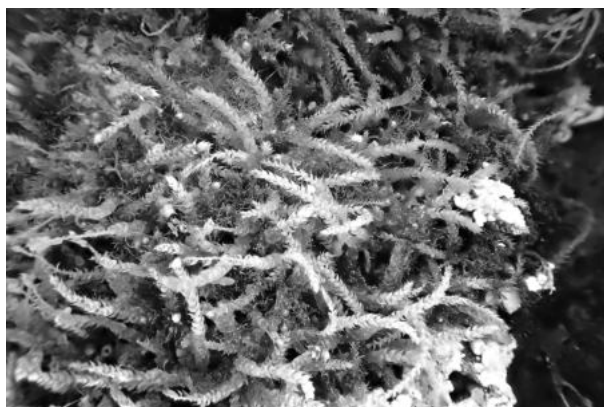


図 1 レイシゴケ

本種は, 以前ヒゲゴケ科 Theliaceae に属していたが, 現在はネジレイトゴケ科 Pterigynandraceae の所属とされる (戸部・田村, 2012). 分布は, 北海道~九州で, 国外では中国, ロシア東部, 欧, 北米となっていて, 石

灰岩の岩隙などに生える (岩月他, 2001), とされるが, 今回観察した場所は凝灰岩質の露頭であり石灰岩ではない. しかし, この辺りには, 三畳紀~白亜紀の堆積物からなる付加体堆積物 (大沢岩体) が分布しており (青森県立郷土館, 2018), 石灰岩成分の混在も考えられる.

全国的に希少な種であり, 環境省 (2019) の「レッドリスト 2019」では絶滅危惧Ⅱ類となっている.

和名は大きな刺状のパピラをつけた葉がレイシの実を思わせることによる (岩月他, 2001).

Myurella (レイシゴケ属) は日本に 3 種あり, いずれからでも萌は見つかっていなかったが, その中のトガリカイガラゴケ *M. tenerrima* の萌が, 福田均氏採集の弘前市の久渡寺山の標本から見つかっている (太田・柿崎, 2003; 杉村, 2004).

2 ヤマトホウキゴケ *Nardia japonica* Steph. ミゾゴケ科 アカウロコゴケ属

平成 30(2018) 年 6 月, 鱒ヶ沢町築棒山の道路法面の土上で, コスギゴケなどとともに小群落を形成していたタイ類で, 葉の先が 2 裂するアカウロコゴケ属 (*Nardia*) の 1 種を採集した.

この標本を古木達夫博士に同定していただいたところ, アパラチアウロコゴケ *Nardia lescurii* (Austin) Underw. との回答を一旦いただいた.

しかし, その後片桐・古木 (2018) は, Bakalin & Klimova(2016) が行った *N. japonica* の油体の形態概念の修正を受けて, これまで日本の *N. lescurii* としてきたものを *N. japonica* とする扱いに変更した. ただし, 再検討の余地があるとしている.

岩月他 (2001) の検索表によれば, *N. lescurii* は, 葉が明瞭に 2 裂する他, 複葉は大きく顕著で, 葉身細胞のトリゴンが大きいこと, 油体が微粒からなることで他の *Nardia* から区別できるとしている. 採集品ではトリゴンは大きくなかったが他の項目で一致した.

岩月他 (2001) の分布等の情報は「高山の草原, 八甲田山, 蔵王山, 八ヶ岳」としてあるが, その後の古木博

1) 青森県立郷土館自然資料収集事業報告 (2019)

2) 青森県立郷土館, 主任学芸主査 (〒 030-0802 青森市本町 2 丁目 8-14)

士からの私信では、北海道には沢山生えているとのことである。築棒山での記録は、岩月他（2001）にある八甲田山に次いで県内2例目になる。



図2 ヤマトホウキゴケ

3 ヒメクサリゴケ *Cololejeunea longifolia* (Mitt.)

Benedix ex Mizut. クサリゴケ科 ヒメクサリゴケ属 ヒメクサリゴケ属 (*Cololejeunea*) はクサリゴケ科 (25属 137種) のなかの最大の属であり、日本には49種分布する (岩月他, 2001)。南方系の属であり、西南日本に多くの種が分布するが、県内ではナカジマヒメクサリゴケ *C. nakajimae* 1種のみが青森市の眺望山のヒノキアスナロ葉上から記録されていた (湯沢, 1985)。

平成30(2018)年9月、前掲のレイシゴケが付着していた周辺の凝灰岩の岩壁にヒメクサリゴケが見つかり、ヒメクサリゴケ属としては県内2種目の記録となった。本種はやや乾いた岩上に生育しているが、周辺のやや水分が多い岩にはヒロハツボミゴケ *Jungermannia exsertifolia* が見られた。

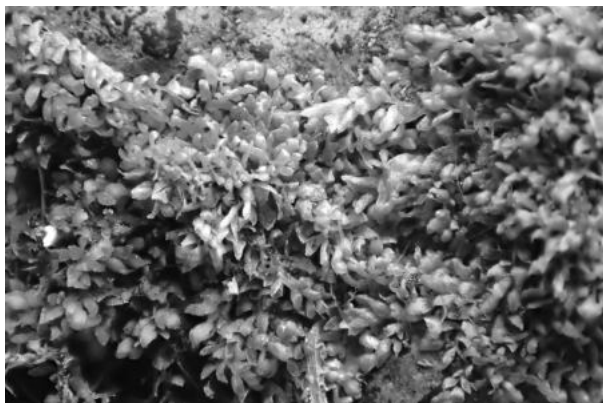


図3 暗門川のヒメクサリゴケ

ヒメクサリゴケの分布は、本州（宮城県以南）～琉球、中国、ヒマラヤ、とされている (岩月他, 2001) ので、今回の記録は新たな北限となる。2019年10月には、西目屋村暗門川（標高260~280m）でも本種の黄緑色の小群落が岩壁のあちこちに付着して、旺盛に生育しているのを確認している。

謝辞

この報告をまとめるに当たっては、千葉県立中央博物館の古木達郎博士には同定の労をお執りいただき、また多くのご教示を頂いた。これらの御労苦とご厚意に深く感謝するとともに、厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 青森県立郷土館（2018）青森県立郷土館平成30年度特別展コロコロ STONE —あおり石ものがたり— 展示解説書。62pp.
- Bakalin V. A. & Klimova K. G. (2016) A note on *Nardia japonica* Steph. (Gymnomitriaceae). *Botanica Pacifica* 5:43-50.
- 岩月善之助・出口博則・古木達郎（2001）日本の野生植物 コケ：355pp.PL.1-192. 平凡社。
- 片桐知之・古木達郎（2018）日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト，2018. *Hattoria* 9: 53-102.
- 環境省（2019）環境省レッドリスト2019. Web 上公開.
- 太田正文（2002）青森県コケ植物分布ノート（1）. *青森自然誌研究* (7):103-106.
- 太田正文（2003）青森県コケ植物分布ノート（2）. *青森自然誌研究* (8):85-88.
- 太田正文（2005）青森県コケ植物分布ノート（3）. *青森自然誌研究* (10):27-29.
- 太田正文（2019）青森県コケ植物分布ノート（4）. *青森県立郷土館研究紀要* (43):65-68.
- 太田正文・柿崎敬一（2003）青森県立郷土館収蔵コケ植物標本 (1). 福田均氏採集弘前市子供の森久渡寺山における蘚苔類. *青森県立郷土館調査研究年報*. 27: 107-114.
- 杉村康司（2004）福田均氏蘚苔類コレクション—久渡寺山（青森県）で採集された蘚苔類— *Bull. Ibaraki Nat. Mus.*, (7): 177-196
- 戸部博・田村実（2012）新しい植物分類学Ⅱ. 日本植物分類学会. 335pp. 講談社.
- 湯沢陽一（1985）東北地方の苔類 2. 津軽半島. *東北植物研究* 2:1-6.